

広瀬正『マイナス・ゼロ』の メモ

takaidos

memo

広瀬正。

1965年連載、1970年発刊。

タイムマシン、時間SFもの。

秀作。

ユーモア感覚も抜群で落語や講談話を聞いているような場面が出て来る。

お約束の登場人物による余計な行動や事件が発生した後、別の話を挿入して、次の展開が気になる読者を焦らせて興味を引っ張るなどもある。

<目次>

プラス・ゼロ～ 昭和20年5月

プラス18～ 昭和38年5月

マイナス31～ 昭和07年5月

ゼロ～ 昭和23年1月

マイナス・ゼロ～ 昭和38年5月

あとがき

解説/星新一

<登場人物>

浜田俊夫:昭和20年14歳、昭和38年32歳。テレビ製造。昭和7年で山田→中河原伝蔵。

伊沢教授:タイムマシンを作って啓子を養子にしていた人物。

伊沢啓子:昭和20年17歳。

コズエ:キャバレー・フルハウスのホステス。啓子の服の買出し。

及川:戦後、伊沢家とその研究室を継承。

おかみ:大工のかみさん。タバコ屋。

カシラ:大工。昭和23年で66歳。

タカシ:小4。かしらの長男。賢い。

オヤブン:かしらの次男。良文。

中河原伝蔵:昭和7年の世界の共産主義活動家。地下に潜るため、戸籍をカシラを通して浜田俊夫に

売る。

佐渡屋:大阪の玩具メーカー。俊夫がヨーヨーのアイデアを売る。

レイ子:銀座のバー・モロッコの女給。胸を病んでいたが推理小説が好きで賢い。

広瀬正:少年時代の著者本人。

平林:昭和7年、タイムマシンのあった場所の地主。

小田切美子:昭和23年のドームに女中と2人で住む。35歳。本名・及川美子。映画監督・及川徳治の養女。

ジョージ山城:米軍中尉。山城譲治27,8歳。及川家を度々訪問して来る。

及川啓美:及川美子と伝蔵の娘。昭和32年で小3(9歳)。

<あらすじ>

昭和07年5月、俊夫32歳、昭和38年から来る。

同月、俊夫の代わりに巡査が昭和39年の未来へ行ってしまう。

昭和08年、伊沢先生、タイムマシンで戦前の日本に到着。

昭和20年5月空襲。伊沢先生死す。17歳の伊沢啓子、行方不明。

昭和38年5月、俊夫32歳、及川家の研究室に来て、17歳の啓子と再会。

俊夫、タイムマシンで昭和7年へ。

俊夫に不審尋問をしようとした巡査、昭和7年から昭和38年へ。

戻って来たタイムマシンで啓子、俊夫を追ったが昭和2年へ。

俊夫は昭和7年でカシラー一家の家に世話になりながらホステスのレイ子と逢う。

当時の銀座などを散策。

昭和8年5月から昭和38年に帰ろうと準備するが、満州事変で"中河原伝蔵"として召集され中国戦線へ、フィリピンへと戦地へ行かされ、

帰国できたのは戦争の終わった昭和23年。

そこで小田切美子こと及川美子と逢う。

GHQのジョージ山城と会い、山城の計らいで美子と結婚し、及川伝蔵となる。

昭和38年5月、32歳の自分である浜田俊夫が訪ねて来る。

伊沢啓子がタイムマシンで昭和20年からやって来る。

俊夫も啓子もタイムマシンで去ったあと、及川美子は本当の自分を思い出す。

彼女は53歳の伊沢啓子だった。

伝蔵こと俊夫と美子こと啓子はこれまでのことを語り合う。

あの日啓子は俊夫のツイードを持って俊夫を追って過去へ向かった。

しかし着いた先は昭和2年の梅ヶ丘だったが、それまでの記憶が無くなっていた。

警官に尋問され、刑務所に入れられてしまうが、程なく一児(俊夫との間に出来た女の子)を産む。

その後、映画監督の及川徳治氏の養子となり、小田切美子として女優デビューして有名になる。

その子は国立の施設に預けるが、ほどなく里親に貰われる。

しかし昭和20年の空襲でその子は死んだと聞かされる。

俊夫と啓子の娘・啓美(ひろみ)は、ママはママの娘で、わたしのお姉さん、近親結婚だけど自分にはどこにも異常がないから問題ない、

という。

<メモ>

葎町:よしちょう。葎原→吉原。現在の中央区の日本橋人形町。遊里のあった場所。

蟹睦会:かにむつかい。銀座にあった。

刑法読本:滝川事件。思想弾圧。映画『わが青春に悔いなし』。

白木屋の火災。

女性店員が裾が広がるのを気にして、転落死したというのは都市伝説らしい。